

山田流御太刀□□□之次第

第五 玉簾 有太刀
第六 第七 無太刀
第七 第八 冠前

山田初尾

以
上

勢州多下御所

山田久兵衛尉

浅井庄左衛門尉入道
宗金

道金

朝比奈角右衛門尉

正次

峰屋吉左衛門

久好

寛文六年丙午五月吉日

天狗書之次第

第一	貫打	膝付	合震	玉簾	車之太刀	車之取	身卜身	第八
五加								
第二								
第三								
第四								
第五								
第六								
第七								
第一								

九ヶ太刀之次第
第一 身源
第二 羽返

山田流御太刀ト云ハ天文貳拾甲寅歳御奈良院之御宇勢州多
所ニ伊藤万右衛門ト申者有彼万右衛門御所御芸古及千目弘
丙辰年彼万右衛門山伏ト姿ヲ現我ハ是大峯八大金剛童子ヨ
御使大天狗人間ト現郷ノ□□ニ奉相傳也極意秘密不傳残傳
惣失□扱ハ此太刀人間無傳所大峯金剛童子之復所トテ弥神
恩召テ嫡子国司ヘ傳給御弟子花山院一人ナリ右此太刀勢州
ノ御所ヨリ代々請次□雖為極意秘密魂属執心深令相傳者也
印可如
多下之御所
大上国司
花山院

多下之御所
大上國司
花山院

花山院

天狗書之次第

山田久兵衛尉宗金
浅井庄左衛門尉入道
朝比奈角右衛門尉正次
同名 利柳 正吉
峰谷吉左衛門尉久吉
道念
千時寛文五歳 午五月吉日



天狗書之次第
 第三 当方
 第四 当□
 第五 不詰
 第六 新見
 第七 延見
 第八 天狗渾
 第九 稲妻太刀

第一 五賀
 第二 ぬきうち
 第三 ひざつけ
 第四 合かすみ
 第五 玉すだれ
 第六 しゃの太刀
 第七 身とみ
 第八 身じん

九ヶ太刀之次第
 第一 者太刀
 第二 身ト身
 第三 身沈
 第四 当方
 第五 羽返
 第六 龍見前
 第七 龍見延
 第八 夜太刀
 第九 不結太刀

以上 口傳

勢州多下御所—大上国司—山田久兵衛尉

寛文六年丙午 五月吉日
 大場次兵衛殿

九ヶ太刀之次第
 第一 とうほう
 第二 宇之太刀
 第三 無之太刀
 第四 はかやし
 第五 たうろう
 第六 りうけん
 第七 りうけんのべ
 第八 ふつめの太刀
 第九 よるの太刀

飛かへしの次第

第一 天具のむち
 第二 七無しよう
 第三 いなづま
 第四 つめきり
 第五 まわり切
 第六 えんび
 第七 とらのはらはい

宗金

浅井庄左エ門尉入道

朝比奈角右衛門尉

道念

正次

蜂屋吉左衛門尉

久好



右ハ勢州多下之御所より代々つたいそうてんせしむ
もの也

多下之御所

大上国司

山田久兵衛尉
浅井庄左衛門尉
朝比奈角右衛門尉
峰屋吉左衛門尉

飛返し之次第

- | | |
|----|-----|
| 第一 | 天狗鞭 |
| 第二 | 七無掌 |
| 第三 | 詰切 |
| 第四 | 廻切 |
| 第五 | 猿飛 |
| 第六 | 虎腹拌 |
| 第七 | 虎走り |
| 第八 | 寅腹拌 |
| 第九 | 寅走り |
| 第十 | 寅 |

右勢州多下御所ヨリ代々今相伝者也
多下御所

大上国司

山田久兵衛尉
宗金

浅井庄左衛門入道

道念

朝比奈角右衛門尉

正次

蜂屋吉左衛門尉

久好

寛文六年丙午 五月吉日

拍子取之事

- | | |
|-----------|---------|
| 一、行違之事 | 同右左 |
| 一、ゆき仕置之事 | 同ひかゑし之事 |
| 一、こ志り返シ之事 | 同ひかゑし之事 |
| 一、つがくしの事 | 同ひかゑし |
| 一、杉なをしの事 | セう志や取之事 |

寛文六年
丙午
五月吉日

蜂屋吉左衛門尉
宗金
浅井庄左衛門尉入道
朝比奈角右衛門尉
道念
正次
久好

其言 (略)

以上

第一 天狗鞭
第二 七無掌
第三 詰切
第四 廻切
第五 猿飛
第六 虎腹拌
第七 虎走り

多下之御所—大上国司—山田久兵衛尉

宗金



同右左

一、後だき取之事

同ひかゑし

一、居取之事

同右左ひかゑし

一、三ツ之一拍子取之事

矢切之大事

木えかくし

たむさえ事

むなつくし

之事

四方詰之事

居合太刀之事

具足切合之事

棒取つくし之事

水たいまつ之事

はなかけ火之事

むさうだいまつ之事

目隠之事

大りん之事

小りん之事

戸前之事

戸脇之事

むけさし扇之事

秋道之大事

水や之事

剣躰見様之事

われになき事

がんせん無光事

星無事

極意秘伝書
剣躰無キ事

「なんみやうげん上来也百三十三へんとなへ太刀ぬ
きさま二右左江真言をとなへ上江太刀を上テ中江切
時あくまけとうをきりはろうなり 口傳有

蜂屋吉左衛門尉

久好

寛文六年五月吉日

一、天狗書之次第

二、九ヶ太刀之次第

三、飛返

四、真言

右之通勢州多下之御所より代々今相傳者也桃心之方
於有之者可有御指南仍許如件

多下御所
大上国司

山田久兵衛尉

宗金

浅井庄左衛門尉

入道

道念

朝比奈角右衛門尉

正次

朝比奈角右衛門尉

正重

元禄八歳
亥五月吉日

村松平兵衛殿

以上、古文書、解説したもの、このは
か図解した書も保管しているが略す。